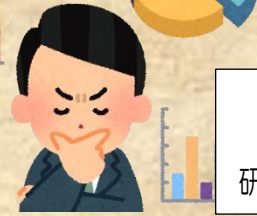


研推だよりNo.32



令和5年
2月1日
研究推進部会

全体会ありがとうございました。さあ、来年の研究の方向性を決めましょう！

先日の研究全体会では、来年度の研究について各グループから様々な意見をいただきありがとうございました。主に「分科会のもち方」「実践本数」の2つをテーマに絞って話し合っていたわけですが、司会の進行・意見集約の力不足で、会の中で合意形成をすることができずすみませんでした。

しかし司会をしながら、この全体会がまったく得るものがなかったかという、そうでもない気がしています。例えば「分科会のもち方」については、先生方の中で（もちろん私も含めてですが）新しい事へチャレンジしたい気持ちが大きくなっていったように思います。これまでの2年間の実践を通して、「これまでの既存の分科会形式から、何か新しい分科会へとシフトチェンジしてもいい頃合いなのでは…？」と感じてらっしゃる方が少なくなかったのは、研究を進める上で1歩前進と言ってよいと思うのです。それを受けて、研推でも来年度の研究について話し合いました。

1 第8回研究全体会

<第8回 研究全体会>

日時：令和5年2月1日（水） 場所：パソコンルーム

1. 校長先生からのお話 （校長先生）
2. 1年 話題提案授業（B授業）協議会
 - ① 授業について～ビデオを見ながら～（低学年分科会）
 - ② グループ協議
 - ③ 全体協議
3. 来年度の研究について
 - ① これでいこうと思いましたがいかがでしょう!?（研推）
 - ② グループ協議（グループ）
 - ③ フリートーク（グループ）

テーマ「来年は個人的に

こんなことやってみたい、見てみたい」

4. 終わりの言葉 （副校長先生）



提案

A～Dの4つの手立てに応じた分科会を設定し、必要に応じて計1本以上の実践に取り組む



	思考を深める手立て	表現を豊かにする手立て
場面を作り出す	①漢字パズル (3年国語、松田実践) ②撮影動画をもとにアドバイス※ (4年体育、林実践)	①おすすめの本紹介※ (3年国語、岡本実践) ②おもちゃの作り方紹介※ (2年生活、中島実践) ③写真撮影 (2年生活、水流実践)
方法を示す	①ポートフォリオでの情報蓄積※ (すずかけ総合、山中実践) ②思考ツール (5年社会、中島実践)	①共同閲覧共同編集(6年国語、竹内実践)※ ②動画撮影(すずかけ総合、福樹実践) ③プレゼン作成(6年外国語、澤登実践) ④写真撮影(1年図工、豊田実践)※ ⑤ニュース動画作成(5年総合、本田実践)※ ⑥Wordによる文書作成(4年国語、松澤実践)

研推での検討経緯

先日の第7回研究全体会などにおいて先生方から出された意見やアイデアをもとに、以下の4つの分科会案および研究主題案をたたき台としてメリット・デメリットを確認

① アプリケーションごとに分科会設定	② 手立てのマトリクスごとに分科会設定						
例) SkyMenu_分科会 Teams 分科会 コラボノート分科会 →どこでどう使うといいの? →自分の興味あるICTの何かの「プロ」をつかって学年で共有して 手立てを意識しながら研究発表の授業へ! 例2) 手立てのマトリクスごと ICTでのびたと短絡的につなげるのは危険? →効果的な活用とは? ねらいを達成するためのツールがICT ○わかりやすい ○授業以外の校務スリム化的な内容もくみこみやすい ▲手法ありきの批判 →やっていく中で網羅できる	<table border="1"> <thead> <tr> <th>思考を深める手立て</th> <th>表現を豊かにする手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ①漢字パズル (3年国語、松田実践) ②撮影動画をもとにアドバイス※ (4年体育、林実践) </td> <td> ①おすすめの本紹介※ (3年国語、岡本実践) ②おもちゃの作り方紹介※ (2年生活、中島実践) ③写真撮影 (2年生活、水流実践) </td> </tr> <tr> <td> ①ポートフォリオでの情報蓄積※ (すずかけ総合、山中実践) ②思考ツール (5年社会、中島実践) </td> <td> ①共同閲覧共同編集(6年国語、竹内実践)※ ②動画撮影(すずかけ総合、福樹実践) ③プレゼン作成(6年外国語、澤登実践) ④写真撮影(1年図工、豊田実践)※ ⑤ニュース動画作成(5年総合、本田実践)※ ⑥Wordによる文書作成(4年国語、松澤実践) </td> </tr> </tbody> </table> 表現するために思考を働かせる(思考する場面に布石を打つ)→見通しをもつと思考も深まる ○今年度からの継続性 ○まるわかりブック化して「研究のウリ」にできる ▲難解な研究になりそう	思考を深める手立て	表現を豊かにする手立て	①漢字パズル (3年国語、松田実践) ②撮影動画をもとにアドバイス※ (4年体育、林実践)	①おすすめの本紹介※ (3年国語、岡本実践) ②おもちゃの作り方紹介※ (2年生活、中島実践) ③写真撮影 (2年生活、水流実践)	①ポートフォリオでの情報蓄積※ (すずかけ総合、山中実践) ②思考ツール (5年社会、中島実践)	①共同閲覧共同編集(6年国語、竹内実践)※ ②動画撮影(すずかけ総合、福樹実践) ③プレゼン作成(6年外国語、澤登実践) ④写真撮影(1年図工、豊田実践)※ ⑤ニュース動画作成(5年総合、本田実践)※ ⑥Wordによる文書作成(4年国語、松澤実践)
思考を深める手立て	表現を豊かにする手立て						
①漢字パズル (3年国語、松田実践) ②撮影動画をもとにアドバイス※ (4年体育、林実践)	①おすすめの本紹介※ (3年国語、岡本実践) ②おもちゃの作り方紹介※ (2年生活、中島実践) ③写真撮影 (2年生活、水流実践)						
①ポートフォリオでの情報蓄積※ (すずかけ総合、山中実践) ②思考ツール (5年社会、中島実践)	①共同閲覧共同編集(6年国語、竹内実践)※ ②動画撮影(すずかけ総合、福樹実践) ③プレゼン作成(6年外国語、澤登実践) ④写真撮影(1年図工、豊田実践)※ ⑤ニュース動画作成(5年総合、本田実践)※ ⑥Wordによる文書作成(4年国語、松澤実践)						
③ 学習過程ごとの分科会設定 例) 授業の「導入・展開・まとめ」ごとの分科会 ○手立てが立てやすい ▲研究内容が広げにくい	④ ICT活用に主眼を置いた研究主題へ 例) 「令和の日本型教育を見据えた、ICTを活用した学びスタイルの創造」→分科会は? ○分かりやすい 「個別最適な学び」 ○授業以外も組み込みやすい 何がのびたのか? ▲主題ごと変えることのリスク						

1

①および④の ICT 活用を主たる目的とした研究は、教師側は取り組みやすい一方で、①研究により児童のどのような力がのびたのかが不明瞭になりやすいこと、②「ICT を活用したからのびた」と結論付けるのは短絡的であること、といった懸念材料がある。



2

やはり様々な ICT 機器やそれを活用したアプリケーションは本来、教科や単元、本時のねらいを達成するための「ツール」として位置付けられるものであり、これは従来からの学校現場で多く取り組まれてきた紙と鉛筆による学習と並列である「文房具としての活用」の意識に私たち教師側も一度立ち返る必要がある。



3

②の手立てのマトリクスに沿った研究（分科会）は現時点でそれぞれの具体的な手立てが明確化されていないため、分科会立ち上げ時の困難さが伴うが、過去2年間の実践を手掛かりとして研究の手立てが見えてくるのではないか

例) C分科会…表現を豊かにするために場面を作り出す手立て

①3年国語「おすすめの本紹介」の実践



学習のねらいに応じて発表相手や発表の目的を明確に設定することが大切



4

また、この2年間で先生方の ICT 機器を授業に取り入れようとする意識は確実に高まってきている。その効果的な活用方法を模索する手法的な研究については、日常の授業レベルで今後も継続していく。具体的には、新年度に教員一人一人のレベルで自分の興味のある ICT の活用方法について、半年間あれこれと試してみて、その様子を定期的な学年会や研究分科会で報告共有していく。



5

新年度の研究も含めれば、この3年間で多くの実践を積み重ねたことになる。その成果として、授業での ICT の活用場面や使い方を整理した「まるわかりブック（仮）」的なものが研究発表時に配れたら、それは三小の研究の一つの「ウリ」になるのではないか。

（もし「5」の教員一人一人の実践報告もまるわかりブックに掲載できたら、さらに内容の充実した素敵なブックになりますね！）



以上のことから、来年度は「思考したことを豊かに表現する児童の育成～ICT の効果的な活用を通して～」の研究主題のもと、上記表中の②「手立てのマトリクスごとに分科会を設定」し、研究に取り組んでいくということで考えています。

2 研究紀要

作成の御協力ありがとうございました。現在、研推で集まった原稿の書式を整えているところです。この後PDFにして、2月初旬には業者へ製本依頼をしていきます。

<今後の流れ>

< T o p i c >

2月初旬	業者へ原稿渡し（PDFで）
	↓
2月中旬	業者から決定版の確認依頼
2月下旬	研推で確認後、業者へ決定版送付
	↓
3月中旬	完成版の紀要到着、関係者へ配布

- ① 150部印刷し、校内の先生方や講師の石出先生、市教委や市内各校に配布予定。残部は来年度の研究発表時に向けて残しておく。
- ② 費用高騰もあり、表紙・裏表紙のみをカラー印刷。